

## 第1学年〇組 英語科学習指導案

### 1 単元 PROGRAM 5 「国際フードフェスティバル」

#### 2 指導観

- 小学校への外国語活動の導入に伴って、中学校では「聞くこと」「話すこと」を重視した目標から「読むこと」「書くこと」を加えた4技能の総合的な育成を強調した目標に変更された。また、お互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を通して、既習の学習内容を活用することが求められている。

本単元は、由紀と武史が、インドから来た友だちのバルーと一緒に、国際フードフェスティバルを訪ねる場面である。インドコーナーでは、カレーを通して、食文化についての国際理解を深め、韓国コーナーでは、民族衣装を通して異文化に触れている。また、バルーの家族の紹介から、インドの社会について新たな発見をする。以上のような中学生が実際に体験できそうな話題を通して、国際理解を図ることができる内容となっている。

また、言語材料としては、be動詞isの肯定文・否定文(This is～. Is that～? Yes, it is. No, it isn't.), 疑問詞 where, 3人称の代名詞(He is～. She is～.)が取り上げられている。生徒は、それらの理解と運用を通して、友人や家族を紹介する基本的な表現を身につけ、相手に質問するなどの表現の幅を広げることができるものと期待する。

- 本学級は、男子〇名、女子△名の計□名である。学習に真面目に取り組み、忘れ物なども少なく宿題にも真摯な態度で臨む。また、コミュニケーション活動などにも積極的に参加し、「英語は将来必要だと思う」とほぼすべての生徒が答えており、英語を学ぼうとする意欲が高い。また、91%の生徒が「1学期に英語の力がついた」と実感している。

しかし、活動自体は楽しかったが、「英語が分からないのに、無理に発言させられ辛かった」「単語をたくさん覚えなければならず大変だった」などの感想を述べる生徒が多かった。授業において、英語でのコミュニケーション活動の楽しさを感じさせ、生徒に英語を使おうとする態度を養わせる必要がある。英語を意思疎通の手段であることを伝え、英語を使うことで世界の国の人々と交流することができる喜びを味わわせたい。

- 指導にあたっては、生徒に英語でコミュニケーションすることの楽しさを実感させ、自分の考えや気持ちなどを伝える活動を通して、発信する意欲と技術の向上を図る。また、生徒に達成目標を明確にさせるためにcan-do listを提示し、積極的に授業に取り組みせたい。

そのために、まず新出文型の導入の際は視聴覚機器を効果的に活用し、生徒の英語に対する興味・関心を高める。次に、帯学習において生徒に基礎的・基本的な表現力を身に付けさせ、dialog作成を通して英語で会話を続けられるような基盤作りを行う。さらに、生徒が自らの考えを、自信をもって発信することができるように、有効な単語や言い方を随時提示すると共に、生徒が意見を交流させることができるようなコミュニケーションの場面を多く設定する。最後に、can-do listを用いて生徒に自らの力を把握させ、教師としても指導の振り返りとする。

#### 3 目標

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に skit を作成しようとしている。</li> <li>・ ジェスチャーや絵などを用いて、英語で積極的に内容を伝えようとしている。</li> </ul>
外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ this/that, she/he を用いて、相手に質問したり答えたりする。</li> <li>・ 疑問詞 where を用いて相手に場所を尋ねたり、答えたりする。</li> <li>・ 既習の文法事項や単語を使用して、自分の考えを書く。</li> </ul>
外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書を読んで内容を理解する。</li> <li>・ 資料を読んだり視聴覚教材を聞いたりして、内容を理解する。</li> </ul>
言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インドや韓国の文化について理解する。</li> </ul>

(1) 本時の目標

- 積極的に相手に内容を伝えようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 英語で自分の考えを書く。(外国語表現の能力)

(2) 本時の指導観

前時までに、生徒は、教科書巻末の Review Reading 「アジアの食べ物」を基にした資料と視覚教材から情報を得て、班ごとに skit を作成している。

本時は、skit の発表を通して、自分の考えを英語を使って発信させることをねらいとする。まず、帯学習として、基本文定着のためのペア活動と dialog (4文会話作成) 活動を行わせる。次に、各班 skit 発表をさせる。最後に、生徒は、自分の意見を書く。

input の工夫として skit 発表を用い、生徒に自分の考えを発信したいという意欲を喚起し、また他の生徒の良い表現を学ばせる場とする。

(3) 準 備

- ①学習プリント ②ワークシート ③辞書

(4) 過 程

学習活動・内容	準備	留意点(☆教師の支援)	形態	配時(分)	評価規準〈評価方法〉
1 英語であいさつをする。			一斉	1	
2 Warm-up をする。 ・ key sentence ・ dialog practice	①	・大きな声であいさつするように指導する。	ペア	10	
3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなの発表を聞いて、英語で意見を書こう。</div>			一斉	1	
4 skit 発表を行う。 ・ I like Indian food. ・ This is curry. ・ It is delicious. ・ Do you eat tomatoes?	②	・間違いを気にせず、積極的に活動を行うように促す。 ・発表を聞きながら、情報を書きとらせる。	班	18	関:積極的に、相手に内容を伝えようとしている。 〈様相チェック〉
5 自分の意見を書く。 ・ Let's go to a Chinese restaurant. ・ Yes, let's. ・ I love chicken.	②③	☆書けない生徒には、英単語や構文を示す。	個	10	表:既習の文法事項や単語を使用して、自分の考えを書くことができる。 〈プリント分析〉
6 意見を発表する。	②	・生徒が意欲的に意見を言えるような雰囲気を作る。	個	5	
7 クラスで意見をまとめる。 ・ We go to eat Singaporean food.			一斉	3	
8 次時の予告を聞く。		・教科書などを使って提示する。	一斉	1	
9 英語であいさつをする。		・大きな声であいさつするように指導する。	一斉	1	

4 単元別指導・評価計画 第2学年 単元 PROGRAM 5 「国際フードフェスティバル」 〈9時間〉

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準〈評価の方法〉	B の状況	A の状況
3	1 構文を用いて、質問したり、応答したりする。 ・ This is my bag. ・ Is this your pencil? ・ Where is ~? It is ~. ・ She(He) is a Giants fan.	・生徒が理解しやすいようにプロジェクターを用いて視覚的に説明する。	表：this/that, she/he を用いて、相手に質問したり答えたりする。 表：疑問詞 where を用いて相手に場所を尋ねたり、答えたりする。  〈発言チェック〉☆	・例文を参考にして、相手に質問したり、答えたりすることができる。  ☆：C の生徒への手だて パターン練習をさせた後に、インタビュー活動に取り組みさせる。	・例文以外に、自分で工夫して相手に質問したり、答えたりすることができる。
3	2 新出単語と本文の内容を理解する。 ・インドの食文化について ・韓国の文化について ・インドについて	・生徒から単語や内容の意味を引きたすよう、ヒントを提示する。	理：教科書を読んで内容を理解する。  〈プリント分析〉★	・本文についての質問に、2問以上答えることができる。  ★：B の生徒への手だて 本文に続く内容を考えさせ、英文を書かせる。	・本文についての質問に全問答えることができる。
1	3 Review Reading 「アジアの食べ物」を読み、内容を理解する。 ・ You're in Singapore. ・ What do you eat for lunch?	・班ごとに資料や視覚教材を提示し、情報を聞き取らせる。	理：資料を読んだり視聴覚教材を聞いたりして、内容を理解する。  〈プリント分析〉	・インドや韓国の文化について説明することができる。 ・資料についての質問に2問以上答えることができる。	・インドや韓国の文化について、自分で調べて説明することができる。 ・資料についての質問に全問答えることができる。
1	4 スキットを作成する。 ・ I like Indian food. ・ This is curry. ・ It is delicious. ・ Do you eat tomatoes?	・班ごとに創意工夫して skit が作成できるよう、モデルを提示する。	関：積極的に skit を作成しようとしている。  〈様相チェック〉	・例文やヒントなどを参考に、skit を作成しようとしている。	・例文ばかりでなく、辞書を使い、skit を作成しようとしている。
1 (本時)	5 skit 発表を行う。また、他の skit 発表を聞いて、内容を理解し、自分の考えを書く。 ・ Let's go to a Chinese restaurant. ・ Yes, let's. ・ I love chicken.	・生徒が意見を積極的に書けるよう、役立つ表現を示す。	関：積極的に相手に内容を伝えようとしている。  表：既習の文法事項や単語を使用して、自分の考えを書く。  〈プリント分析〉☆	・ジェスチャーを用いて skit 発表をすることができる。 ・自分の考えを3文書くことができる。  ☆：C の生徒への手だて 例文を使って書くようにアドバイスをする。	・ジェスチャー以外にも工夫して skit 発表をすることができる。 ・自分の考えを4文以上書くことができる。